NATIONAL AINU MUSEUM

vol.005
2021 JULY

アヌココㇺ アイヌ イコロマケンル ソンコ 国立アイヌ民族博物館ニュースレター アヌアヌ

ANUANU

探究展示 テンパテンパ③
博物館pickup!
見て見て！館内サイン⑤
教育普及活動報告
法務省からのお知らせ
ウポポイってこんなとこ②
基本展示の注目ポイント⑤
「ネプキ　私たちのしごと」
第2回特別展示
「ゴールデンカムイ トゥラノ アプカシアン
―杉元佐一とアシリパが旅する世界―」

草皮衣／小樽市総合博物館蔵（p.2）

国立アイヌ民族博物館 第2回特別展示

ゴールデンカムイ トゥラノ アプカシアン

― 杉元佐一とアシリパが旅する世界 ―

※「ゴールデンカムイ トゥラノ アプカシアン」は、アイヌ語で「ゴールデンカムイと歩く」という意味です。

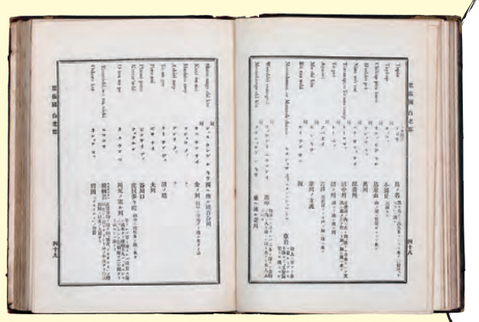
令和3（2021）年7月3日㊏～令和3（2021）年8月22日㊐

ウポポイ入場料とは別に特別展入場料（300円）が必要です。詳細は8ページをご覧ください。

本展覧会は、2014年から「週刊ヤングジャンプ」（集英社）にて連載されている漫画『ゴールデンカムイ』（野田サトル作）の原作内容を中心に、伝統的なアイヌ料理や動植物との関わり、当時のコタン（村）の生活などに関連する民具資料を原画※とともに展示します。また、アイヌ文化だけではなく、作中に登場する樺太（サハリン）北部、沿海地方およびアムール川流域に住むニヴフや、ツングース系のウイルタなどアイヌ民族に隣り合う先住民族や、北海道の砂金、日露戦争とアイヌ、小樽などの当時の街の文化など、作品の中心的な歴史的背景についても紹介します。

20世紀初頭の北海道・樺太を舞台としたアイヌと和人の関係史を軸に、先住民族アイヌの歴史と文化に触れてください。

※本展覧会における「原画」はデジタルで描かれた原稿を印刷したものをさします。



『北海道蝦夷語地名解』永田方正、1891年、北海道庁

ヤウンモシリ ネワ コンカニ
北海道と砂金

ネイ タ アナクネ ヤウンモシリ タ ネコン アイヌ オカイ ヤ,『ゴールデンカムイ』オッタ アヌイェ「ヌチャ ウライケ」ネコン アン トゥムンチ ネ ヤ セコロ アンペ エシヌカレアシ.
（当時の北海道アイヌと『ゴールデンカムイ』に描かれた日露戦争について紹介します）

『日露戦役写真帖 樺太軍 陸地測量部蔵版』小川一真、1906年

ヌチャ ウライケ ネワ ヤウンモシルンクル
日露戦争と北海道アイヌ

展示内容のテーマは6つ

草皮衣（小樽市総合博物館蔵）

『ゴールデンカムイ』オルン ウタラ
『ゴールデンカムイ』の登場人物

『ゴールデンカムイ』イッケウェ ネ オカ ウタラ オルシペ チイェ コロ, ミピヒ ヘネ コロ ペ ヘネ エチヌカレアシ ナ.
（『ゴールデンカムイ』の主要な登場人物について紹介するとともに、その服装品・装備品を展示しています）

ハハカ／帽子（樺太アイヌ）

ヤンケモシリ オホタ ウェーカーリ
樺太での出会い

ストゥ／制裁棒

コタン オッタ エトゥナンカラ
コタンでの出会い

『ゴールデンカムイ』オッタ アヌイェ マチヤ, ヘロキカラ, シサム アエイワンケプ, エチヌカレ ナ.
（『ゴールデンカムイ』に描かれる、当時の街や、ニシン漁、和人の生活道具について展示しています）

モッコ（北海道博物館蔵）

ヤウンモシリ マチヤ
北海道の街

©野田サトル／集英社

原作紹介 『ゴールデンカムイ』は、野田サトル氏によって描かれた漫画です。物語は明治末期の北海道や樺太を舞台とし、アイヌから奪われた莫大な金塊を求めて各地で争奪戦が繰り広げられます。“不死身”と呼ばれた男・杉元とアイヌの少女・アシリパは共に旅をしながら、金塊の在処とその謎に迫ります。2014年より「週刊ヤングジャンプ」（集英社）にて連載中。2016年マンガ大賞受賞。

ここに注目! 1階展示コーナー

第2回 エントランスロビー展示

アイヌ文化に興味を持った人に読んでほしいマンガ!特集

研究者や伝承者が制作に携わっている漫画作品や、アイヌ民族が登場する漫画作品等を取り上げ、漫画作品からアイヌ文化に興味を持った方に、他の作品にも興味を広げていただく展示です。展示している作品の一部は、ライブラリで読むことができます。（エデュケーター 永石理恵）

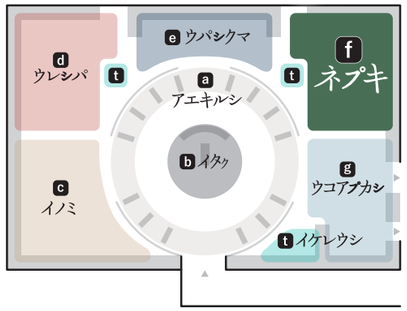
【主催】国立アイヌ民族博物館 【後援】北海道、北海道教育委員会、公益社団法人北海道アイヌ協会 【特別協力】集英社「週刊ヤングジャンプ」編集部 【協力】阿寒アイヌ工芸協同組合、旭川市博物館、旭川市図書館、小樽市総合博物館、札幌市アイヌ文化交流センター（サッポロピリカコタン）、新ひだか町博物館、大樹町教育委員会、東北歴史博物館、名寄市北国博物館、登別温泉ケーブル株式会社のぼりべつクマ牧場、博物館 網走監獄、函館市中央図書館、平取町立二風谷アイヌ文化博物館、北鎮記念館、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター、北海道大学附属図書館北方資料室、北海道博物館、北海道立北方民族博物館、野外博物館 北海道開拓の村

今月の表紙 小樽市総合博物館所蔵の草皮衣で、『ゴールデンカムイ』に登場するアイヌの少女・アシリパが着ている衣服のモデルになりました。イラクサ製で、和服のようにおくみがあります。小樽のアイヌ民族が所有していたものと特定されている、貴重な資料です。

基本展示の注目ポイント⑤

ネプキ　私たちのしごと

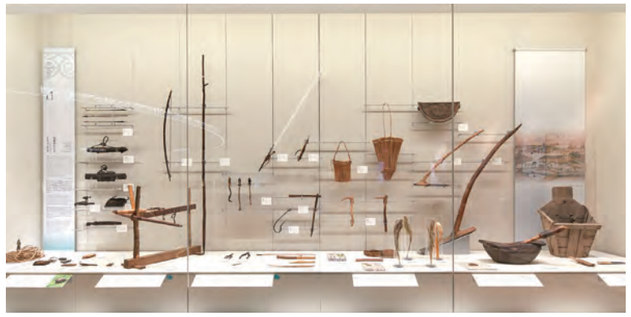
常設の基本展示室は、私たちアイヌ民族の視点で、
ことば、文化、歴史について紹介しています。
数回にわたって、それぞれのテーマの見どころをお届けします。



基本展示における「ネプキ」の役割

遠い先祖の世代から続いてきた、生活の根幹である狩猟・漁撈・採集・農耕などの伝統的なしごと、明治以降の激動の時代を生きた世代が近代化の中で従事するようになっていったしごと、そして今を生きる国内外で活躍する仲間たちが携わっているさまざまなしごとについて紹介しています。

（新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、映像プログラムの一部が休止となっている場合があります。）



先祖のしごと

山・海・川での漁猟（ぎょりょう）や植物採集、農耕でつかう道具や技には、自然環境に適した知恵や多くの工夫が見られます。私たちの先祖は、狩猟道具ひとつつくるにしても、動物の性格・クセ・行動などを知り抜いて、それらを上手に利用してきました。植物も食用とするほか、それぞれの特性を活かして、薬や糸などの道具の材料にもなります。伝統的なしごとの道具について、その仕組みや使い方にも着目してご覧ください。

研究員のおすすめポイント

伝統的な狩猟・漁撈・採集・農耕で身につけていた装いや道具の使い方を再現しています。物語でのシカやサケに関する常套句や、採集で唱えるおまじない、穀物を臼と杵でつくときの歌などもアイヌ語で紹介しているので探してみてください。　（研究主査　宮地鼓）

マキリ（小刀）

マキリは生活において最も身近な道具のひとつで、かつては男性女性ともに日頃から身につけていました。山での狩猟や採集、海や川での漁に持っていく必需品であり、ほかにも木の細工や炊事などにも使いました。鞘と柄には硬い材質のイタヤカエデなどを素材とし、彫刻で装飾を施します。腰からさげるための根付けには、クマの爪やガラス玉などが用いられています。作り手の巧みな技を駆使してつくられたマキリは、工芸品としても注目されています。

1年のしごと

伝統的なしごとが一年を通してどのように営まれてきたのか、タッチパネルで検索できる映像コンテンツです。春（パイカラ）、夏（サㇰ）、秋（チュㇰ）、冬（マタ）ごとに、「祈り（行事）」、「捕る（狩猟・漁撈）」、「採る（採集）」、「穫る（農耕）」にわけて紹介しています。対象となる動物や植物の生態の解説もあります。

※タッチパネルは、7月10日現在、「まん延防止等重点措置」の観点から休止しております。

激動の時代のなかで／現代のしごと

エピソードや道具・作品を通して、各々が就いてきたしごとの内容や功績、それぞれの思いなどを伝えています。19世紀後半以降からの同化政策により、アイヌ民族は言葉、生活の場を奪われました。そのような激動の時代の中で従事するようになったしごとを紹介します。また、現在、アイヌ民族はかつての様式そのままの生活をしているわけではなく、時代に合わせてさまざまな生活を営んでいます。北海道だけではなく、日本国内や世界各地で活躍する方がいます。そうした国内外で活躍する現代のアイヌ民族のしごとも紹介しています。

現代のしごと

アイヌ文化は現在までさまざまな形で継承されています。「工芸」では、伝統的な技術、技法などが継承されている二風谷イタと二風谷アットゥシを、貝澤守氏と藤谷るみ子氏の作品を通して紹介しています。「伝統文化を活かし、広げる」では、伝統的な技術などを継承しながらも、現代の技術や表現方法などを用いている藤戸竹喜氏と藤戸康平氏の作品を紹介しています。「音楽」では、伝統をベースとしながら新しい音楽制作を行っているOKI氏を紹介しています。

ウポポイのアイヌ語表示について紹介します。

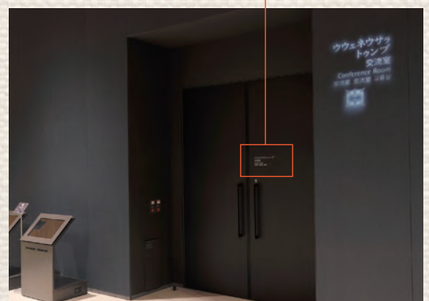
見て見て！館内サイン⑤

ウウェネウサㇲ トゥンプ
交流室

「ウウェネウサㇲ」は、アイヌ語で、互いに集まって互いにいろいろ語り合って楽しむことを指します。交流室は、ホリデーイベントをはじめさまざまな行事を行う場所で、来館者と博物館スタッフが交流し、お互いの知識や情報などをやりとりする場所です。そうした双方向的な機能に一致するため、「ウウェネウサㇲ」を用いています。

さて、かつてのくらしでは、アイヌ民族はチセ（家）の中をござで間仕切りして、寝室などの必要に応じた部屋をつくりました。この部屋をアイヌ語で「トゥンプ」と呼びます。こうした点を踏まえて、当博物館各室の名称で「○○室」という場合には、「トゥンプ」を用いるようにしています。

（研究主査　中井貴規）

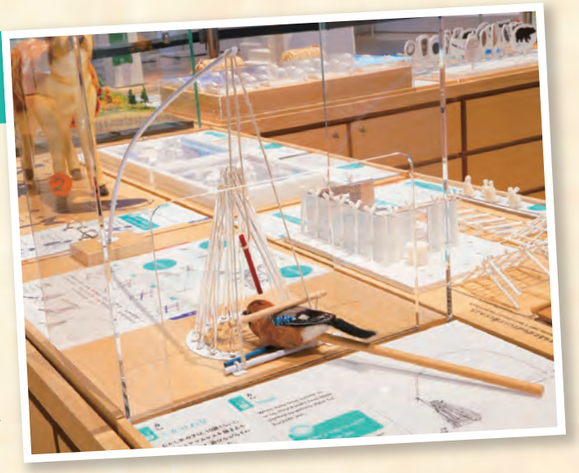


イケレウシ テンパテンパ
―探究展示 テンパテンパ―
③

「テンパテンパ」は、アイヌ語で「さわってね」の意味。体験を通してアイヌ文化にふれることができる、大人も子どもも楽しめるコーナーです。それぞれの体験ユニットをエデュケーターが紹介します。

カ しかけわな

「しかけわな」のユニットでは、数種類あるわなのうち、カケスのわなについて紹介しています。模型を実際に動かしながら、わなの仕組みや捕獲方法について知ることができます。むかし、男の子は10歳頃になるとわなをしかけ、遊びながらわなの仕組みについて学んだといいます。わなは緻密に計算された構造になっているため、正確に設置しないと作動しません。体験することによって、わなの技術継承についてもふれることができます。



エネ ユク アネイワンケ ヒ シカの利用

「シカの利用」のユニットでは、大切な資源であるシカが、どのように使われてきたかを知ることができます。シカを活用し、つくられた道具をみてみると、たくさんの工夫がつまっていることが分かります。このユニットをとおして現代においても人間とかかわりの深いシカについて、考えてみましょう。

（エデュケーター　長谷仁美）

教育普及活動報告

ホリデーイベント名	実施日（2021年5月）
自分だけのミニタマサイを作ろう！	2021. 5.1
もっと知りたい！「収蔵資料展　イコロ」⑥	2021. 5.8
エゾシカの角でマキリキーホルダーをつくろう！	2021. 5.15
本でめぐるアイヌ文化 at パノラミックロビー	2021. 5.22
みんなのうたおどり♪	2021. 5.29

2021年5月22日（土）にホリデーイベント「本でめぐるアイヌ文化 at パノラミックロビー」を開催しました。基本展示室の6つのテーマと博物館の活動について「より深く知りたいならこの本がおすすめ」という本を、当館の学芸員・研究員が選書しました。イベント当日は、選書した21冊の本のほか、推薦コメントを記載したパネルもあわせて2階のパノラミックロビーで展示しました。

1階のライブラリには、アイヌ文化や歴史に関する本をはじめとしたさまざまな本があります（ライブラリ内の閲覧のみ。貸し出しはしていません）。展示鑑賞とあわせて、本をもとに自分の興味を広げ、関心を深めてください。

（エデュケーター　今野 彩）

博物館 pickup!

国立アイヌ民族博物館の収蔵資料をピックアップして紹介します。

ルウンペ（木綿衣）

この木綿衣は、私の高祖母である上野ムイテクン（1872～1964）が着用したものです。現在、当館に所蔵されています。これは現在ルウンペというアイヌ語名称で定着しています。

ルウンペは、一定の幅のテープを本体に縫いつけ、その上に刺しゅうを施します。この資料を収集した児玉作左衛門氏は、各地の衣服を収集しました。『アイヌ民族資料調査』では、この木綿衣をはじめとした白老地方のルウンペについて記述し、その特徴を紹介しています。

「…(略)白老地方のルウンペの特徴は、裂片置文と切り抜き文の組み合わせによる文様構成であり、その中心をなしているものは、矩型（くけい）(※)や正方形の布による切り抜き文である。(略)また身頃背面の文様は、上半部と下半部が必ず分離している」とあります。児玉氏による衣服収集は、上野ムイテクン他、その親類による情報提供が多かったためこのような記述になったと考えられます。

高祖母は現在の日高町厚賀周辺にルーツがあり、この木綿衣には、日高地方の衣服にみられる切伏の技法が背中および裾部分に使われています。このような模様の配置は、上野ムイテクンの長女である野本イツ子氏やその親類へ受け継がれています。

高祖母が記録された写真や映像、そして遺した資料から、高祖母は明治後半から白老での観光に従事し、来訪した研究者にアイヌ語や歌、踊りの情報を提供していたことがわかっています。高祖母を知る伝承者は「祖先伝来の伝統に厳格な人」であったといいます。しかしその一方で、自分の孫たちには「和人の文化で暮らしなさい」と厳しくしつけ、アイヌ語は同世代の友人や長女と話すときだけ話し、息子や孫、さらに曾孫たちに聞かせることはなかったといいます。玄孫の私が、アイヌとして当館で働き、資料整理等の仕事をすることは、当時の高祖母には想像がつかなかったのではないでしょうか。

この木綿衣は、私にとって「モノやヒトに歴史があること」を再認識させ、仕事のモチベーションを上げてくれる大切な資料です。

（学芸主査　八幡巴絵）

故・上野ムイテクン媼
この木綿衣を着用し、記念に写真を撮っている。
撮影場所は自宅の祭壇の前。
※個人所蔵写真

※矩型→くけい、さしがたと読み、長方形や短冊形のことをいいます。

アイヌの人々への理解を深め 偏見や差別のない社会を

法務省　人権イメージキャラクター 人KENまもる君

2019年5月に施行された「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」では、アイヌの人々に対する差別の禁止に関する基本理念が新たに定められています。

法務省の人権擁護機関では、「アイヌの人々に対する偏見や差別をなくそう」を啓発活動の強調事項の一つとして掲げ、アイヌの人々に対する理解と認識を深め、偏見や差別をなくすために、人権啓発活動や人権相談、調査救済活動に取り組んでいます。

【法務省の人権擁護機関について】

国の機関として人権擁護に取り組んでいる法務省人権擁護局、そして全国にある法務局・地方法務局及びその支局と、法務大臣が委嘱した人権擁護委員（民間のボランティアの方々）とを合わせて、「法務省の人権擁護機関」と呼んでいます。

【人権相談窓口のご案内】

アイヌの人々に関する人権問題に加え、セクハラやパワハラ、家庭内暴力、体罰やいじめ、インターネット上での誹謗中傷、差別など、「自分の悩みは人権侵害かも？」と思ったら、一人で悩まず、ご相談ください。秘密は守ります。相談は無料です。

ご相談は、全国の法務局職員や人権擁護委員がお受けします。あなたの悩みの解決のため、最善の方法を一緒に考えます。相談は、電話や窓口のほか、インターネットでも受け付けています。あなたの相談しやすい方法で、ご相談ください。

相談窓口
みんなの人権110番
0570-003-110
（受付時間　平日 8:30～17:15）

インターネット人権相談受付窓口
https://www.jinken.go.jp/

ウポポイへの入場は事前予約制です。

STEP1 博物館への事前予約

博物館に入館する場合は、必ず事前予約をお願いいたします。
当日、予約なしで博物館への入館はできませんのでご注意ください。

国立アイヌ民族博物館では、館内にいる人数を常時200人程度に保つため、1時間刻みの予約制としています。オンライン予約で「博物館 入館整理券」を発行してください。

オンライン予約の状況をご確認後に、ウポポイ入場券の購入をお勧めしています。

博物館への予約はこちら

https://www.e-tix.jp/nam/

STEP2 入場券の事前購入

入場券	料金(税込)	入場日の予約
1日券	大人 1,200円	オンライン購入時に日付を指定
	高校生 600円	
年間パスポート	大人 2,000円	入場日予約券(無料)を発行。オンライン予約で日付を指定
	高校生 1,000円	
入場無料	中学生以下	
	障がいのある方、その介助者(1名)	

1日券購入はこちら

年間パスポート購入はこちら

⊙休館日

月曜日(祝日または休日の場合は翌日以降の平日)、8月10日㊋(※8月9日㊊は開館)

特別展示観覧料

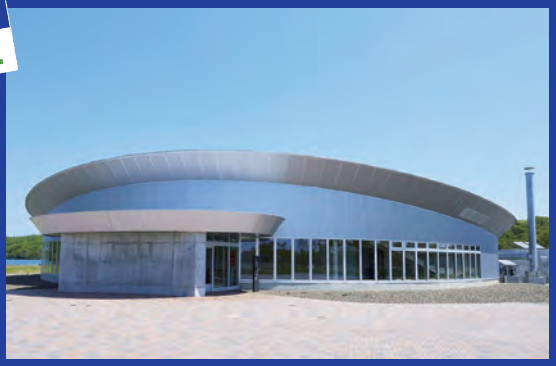
特別展示観覧券は、博物館館内でお買い求めください。(当日券のみ)

- ◦大　人 300円(240円)
- ◦高校生 200円(160円)
- ◦中学生以下無料

※(　)は20名以上の団体料金
※国立アイヌ民族博物館の基本展示室の観覧料は、民族共生象徴空間(ウポポイ)の入場料金に含まれます。

ウポポイこんなとこ2

『ウエカリ チセ 体験交流ホール』



ユネスコ無形文化遺産に登録されている「アイヌ古式舞踊」やムックリ(口琴)楽器演奏など、アイヌの伝統芸能を幅広く紹介します。最新の映像技術や北海道の美しい映像も取り入れた演出により、アイヌの祈りの世界を体感いただけます。

ほかにも、アイヌに伝わる物語の短編アニメーションの上映では、スクリーンのみならず床面にも映像を映し出すダイナミックな演出をご覧いただけます。

さらに10月31日までは、アイヌに伝わる創世神話を主題に、映像・音響が光り輝くオブジェや樹木と連動して織りなす「屋外プロジェクションマッピングショー」として上演しております。夜のウポポイもぜひお楽しみください。

舞踊公演

カムイシンフォニア(イメージ)

ウポポイから入場に関するお知らせ

ご来場に当たっては、マスクの着用、手指の消毒、ソーシャルディスタンス確保等の感染拡大防止対策へのご理解とご協力をお願いいたします。

- ●国立アイヌ民族博物館の入館はインターネットによる日時指定予約制を導入しています。
- ●プログラムのスケジュールや内容等を一部変更、中止している場合があります。詳細につきましては、ウェブサイト等をご覧ください。

国立アイヌ民族博物館からのお知らせ

次回展覧会

交流室展示
「ケレ ヤン、ヌカラ ヤン、ヌ ヤン　さわる、みる、きく、国立アイヌ民族博物館」

会期:2021年8月21日(土)～9月12日(日)

会場:1階 交流室　観覧料:無料

博物館を"みる"だけでなく、"さわって"、"きいて"楽しむ展示です。ウポポイ園内での関連イベントも開催します。詳しくは、当館ウェブサイトでご案内しています。

第3回特別展示
国立アイヌ民族博物館特別展　国立民族学博物館巡回展
「ビーズ　アイヌモシリから世界へ」

会期:2021年9月18日(土)～11月21日(日)

会場:2階 特別展示室

※新型コロナウイルス感染拡大状況によっては変更する場合があります。

特別展示観覧料(予定):大人300円／高校生200円／中学生以下無料

※別途、博物館への事前予約とウポポイの入場料が必要となります。
※詳しくは、当館ウェブサイトをご覧ください。

主催:国立アイヌ民族博物館、国立民族学博物館、千里文化財団

貝殻や木の実や石やガラスなどさまざまな素材から作られるビーズ。本展では、国立民族学博物館および国立アイヌ民族博物館所蔵の民族資料と北海道内の考古資料などを中心に、世界における多様なビーズの歴史とその役割について紹介します。世界のビーズとアイヌのビーズを比較することによって、アイヌ文化の特徴を世界に発信します。

NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館

ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

https://nam.go.jp/

※アヌアヌは、アイヌ語で「もしもし」の意味です

■お問い合わせ
公益財団法人 アイヌ民族文化財団(ウポポイ内)
住　所:〒059-0902 北海道白老郡白老町若草町2丁目3番2号
電　話:0144-82-3914　FAX:0144-82-3685
メール:info@ainu-upopoy.jp

ウポポイに関する詳しい情報はウェブサイトをご覧ください。

ウポポイ　検索

https://ainu-upopoy.jp/

国立アイヌ民族博物館ニュースレター「アヌアヌ」第5号　編集・発行:国立アイヌ民族博物館　2021年7月発行　印刷:凸版印刷株式会社
ISSN 2435-8207